

食 品 安 全

2022
vol. 59

■ 巻頭特集 3

「最新の科学的知見をリスク評価に活かす」
食品健康影響評価指針の改正
食品添加物、微生物、薬剤耐性菌、農薬

■ 食品健康影響評価 6

鉛、ぶどう酒の製造に用いる添加物

■ リスクプロファイル 9

鶏肉等における *Campylobacter jejuni/coli* の改訂

■ 業務紹介 10

リスクコミュニケーション、海外情報の収集と
翻訳・発信、国際協調、研究・調査事業

委員長及び委員紹介

食品安全委員会は、食品の安全を確保するため、国民の健康保護が最も重要であるという基本認識の下、規制や指導等のリスク管理を行う関係行政機関から独立して、科学的知見に基づき客観的かつ中立公正に食品健康影響評価(リスク評価)を行う機関です。食品安全委員会は7名の委員から構成されています。

食品健康影響評価とは? | 食品に含まれるハザード(危害要因)の摂取(ばく露)によるリスク(健康への悪影響が発生する確率と影響の程度)を、ハザードの特性等を考慮しつつ、付随する不確実性を踏まえて科学的に評価すること。

食品安全委員会



委員長 | ^{やまもと} ^{しげき} 山本 茂貴

専門分野: 微生物学

略歴 東京大学大学院農学系研究科獣医学専攻修士課程修了後、農学博士(東京大学)、国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長、東海大学海洋学部教授を経て、2017年1月より食品安全委員会委員、2021年7月より食品安全委員会委員長。



委員 | ^{わき} ^{まさこ} 脇 昌子

専門分野: 公衆衛生学

略歴 徳島大学医学部医学科卒業後、医学博士(徳島大学)、京都大学医学部臨床教授、国立循環器病センター臨床栄養部部長、地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事兼副院長兼内分秘代謝内科主任科長を経て、2021年7月より食品安全委員会委員。



委員 | ^{かさい} 香西 みどり

専門分野: 消費者意識、消費行動(調理科学)

略歴 お茶の水女子大学大学院家政学研究科修士課程修了後、学術博士(お茶の水女子大学)、お茶の水女子大学基幹研究院教授を経て、同大学名誉教授。2018年7月より食品安全委員会委員(非常勤)。



委員 | ^{あさの} ^{さとし} 浅野 哲

専門分野: 毒性学

略歴 富山医科薬科大学大学院薬学研究科博士前期(修士)課程修了後、医学博士(横浜市立大学)、帝人株式会社医薬開発研究所グループ統括、グラクソ・スミスクライン株式会社筑波研究所マネージャー、国際医療福祉大学薬学部教授を経て、2021年7月より食品安全委員会委員。



委員 | ^{まつなが} ^{わか} 松永 和紀

専門分野: リスクコミュニケーション

略歴 京都大学大学院農学研究科修士課程修了後、株式会社毎日新聞社記者を経て、科学ジャーナリストとして活動。2021年7月より食品安全委員会委員(非常勤)。



委員 | ^{かわにし} ^{とある} 川西 徹

専門分野: 化学物質

略歴 東京大学大学院薬学系研究科修士課程修了後、薬学博士(東京大学)、国立衛生試験所(現国立医薬品食品衛生研究所)入所、薬理部、病理部、生物薬品部、薬品部、副所長、所長を経て、2018年7月より食品安全委員会委員。



委員 | ^{よしだ} ^{みつる} 吉田 充

専門分野: 食品の生産・流通(生物有機化学)

略歴 東京大学大学院農学系研究科修士課程修了後、農学博士(東京大学)、(独)農研機構食品総合研究所食品分析研究領域長、日本獣医生命科学大学応用生命科学部教授を経て、同大学名誉教授。2018年7月より食品安全委員会委員(非常勤)。

2021年度食品健康影響評価及び活動概要

食品健康影響評価

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、委員会を43回開催し、調査審議を実施しました。厚生労働省及び農林水産省から83件の評価要請を受け、前年度までに評価要請があったものを含めて2021年度は133件について評価結果を通知しました。

● 添加物	3件	● 汚染物質等	1件
● 農薬	56件	● 遺伝子組換え食品等	33件
● 動物用医薬品	18件	● 肥料・飼料等	18件
● 器具・容器包装	1件	● 薬剤耐性菌	3件

合計133件 (2021年度末までの累計 3,098件)

リスクコミュニケーション

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、対面やオンラインにより、セミナー、意見交換会等を計34回実施(共催、講師派遣も含む)しました。その他ウェブサイトの情報充実、動画による配信を強化しました。

研究・調査事業

研究・調査について20課題(研究17、調査3)を実施し、2022年度に実施する7課題(研究6、調査1)を決定しました。研究成果の普及及び活用の促進を目的に、2020年度に終了した研究課題(3課題)の成果報告書を公開するとともに、成果発表会を実施しました。

国際協調

FAO/WHO合同残留農薬専門家会議、経済開発協力機構(OECD)農薬作業部会、コーデックス委員会等に参加して国際的な議論に貢献しました。また、英文電子ジャーナル“Food Safety - The Official Journal of the Food Safety Commission of Japan”を発刊し14本の論文を掲載しました。